



お茶の京都

お茶の京都

精華町マスタープラン

平成 28 年 1 月

精華町「お茶の京都」事業推進協議会

1 戦略的な交流拠点のエリア

精華町は、日本のほぼ中心に位置する近畿圏のさらにほぼ中心に位置する京都府の南西端にあり、東西約6 km、南北約7 kmで、町域面積25.68 km²を有しており、西部と南部はなだらかな丘陵、東部には平坦な農地が広がり、東端には木津川が流れている。

丘陵部はかつて山林が多くを占めていたが、関西文化学術研究都市（以下「学研都市」という。）の整備などによって、現在は研究開発施設や住宅が多く立地する都市的な環境が形成されている。

平野部は、市街地と集落及び農地からなっており、農地は地味肥沃で気候にも恵まれており、米、京野菜、イチゴのハウス栽培や花き栽培などの都市近郊農業が発達している。

一方で、南山城の特産品であるお茶は、室町時代、菅井^{すがいのしょう}荘（現、菅井区）から興福寺の^{たっちゅう}塔頭である大乗^{だいじょう}院門跡^{いんもんぜき}に年貢として収取していたという記録が残っており、当時から生産されていたことが伺われる。江戸時代には伏見・大阪向けに木津川沿いの川西地域において生産されていたが、

それよりも木津川対岸の上狛を中心とする主産地への出稼ぎの傾向が強かったため、生産量は主産地と比較すると少なく、後にお茶の生産に代わって生産額が期待できる養蚕業を農会が奨励したこともあり、明治33年には桑畑が茶畑の面積を上回り、昭和5年には山田^{やまだしょう}荘村の畑面積の8割近くが桑畑になったとされていることから、町全体でも茶畑が桑畑になり、必然的に茶畑がなくなっていったものと推測される。



昔の趣を今に伝える、北稲八間の町並み

このようなお茶の生産だけにとどまらず、精華町とお茶の関わりは、過去の長い歴史の中で随所に見られる。精華町の稲八間村^{いなやづま}（現、北稲八間区^{きたいなやづま}）には、豊臣秀吉の馬廻衆^{うまわりしゅう}として仕えた武士が、その後朝鮮人医師から医術を学び、大坂の陣後に帰還し町医者となって営んだ茶園跡があり、そこで薬となる茶葉を確保していたと伝えられている。かつてお茶が一般的に薬と

して服用されていたことを考えると、お茶の栽培は自家消費用としての栽培だけではなく、薬として活用されていたものと推測される。

また戦国時代、精華町は「山城国一揆」の舞台となった。山城国一揆は、山城の国人衆が農民と団結し、それまでの支配勢力を排して7年9カ月にわたり自治政治を行ったという、今日の住民自治にもつながる歴



町内の北稻八間には山城国一揆で命を落とした国人衆のものではないかとされる『逆修の碑』がある。

史的な出来事である。一揆の終結の際には、相楽郡の守護代であった古市^{ふるいち}澄胤^{しょういん}が、精華町内にあった稲屋妻城に籠城する国人衆と合戦を繰り広げた。この古市澄胤は茶の湯に精通した文化人としても知られており、村田珠光^{むらたじゅこう}の一番弟子であった。他にも、精華町は平蜘蛛茶釜^{まつながひさひで}で有名な松永久秀の領地にもなっているなど、お茶とゆかりのある戦国大名が、精華町の地を踏んでいたものと考えられる。



けいはんな記念公園で行われている「やましろの国いっ
つき祭り」

指名された洋菓子店など、数多くのスイーツ店が軒を連ねている。人口当たりの洋菓子店の数は神戸市をも上回っていると言われている。この好条件に精華町商工会が着目し、精華町を「製菓の町」にしようと精華町内の商工会員 8 店舗のスイーツ店を中心に「精華町スイーツタウン協会」を組織した。同協会は、個々の店舗の特色を

現在、この山城国一揆にちなんだ「やましろの国いっ
つき祭り」が「けいはんな記念公園」で開催されてお
り、山城地方の竹を使った水鉄砲合戦が繰り広げられ、
平成 27 年で第 6 回を迎える。

また精華町にはテレビ番組で取り上げられた和洋
菓子店や全国お取り寄せスイーツランキングで上位に



精華町内のスイーツ店で作られたスイーツ

出しつつ、互いに切磋琢磨しあうことにより、精華町内の店舗のスイーツの向上、知名度アップにつなげ、結果として来店者の増加＝来町者の増加＝町への移住＝町全体の活性化につなげることを目的に、平成25年度から事業を展開している。

このスイーツとお茶を組み合わせ、京都府、近畿圏、日本各地へと情報発信していく拠点として、各種イベントを催されている「けいはんな記念公園」を設定する。



2 戦略的な交流拠点づくりの基本方針

～山城国一揆の終焉の地となった、

ここ精華町のけいはんな記念公園を核に、

お茶やスイーツ、歴史をテーマにした

広域的な交流・発信～



けいはんな記念公園

3 戦略的交流拠点の目指す姿

年間60万人もの来園者が訪れる「けいはんな記念公園」を活用し、お茶がない精華町だからこそ形式や格式にとらわれない、自由な発想でもって行えるイベント、開発などを地域住民自らが実感し、さらに磨きをかけることによって、地域の新たな魅力を生みだす。

「お茶と言えば古市澄胤♪」、「古市澄胤と言えば山城国一揆♪」、「山城国一揆と言えばけいはんな記念公園のやましろの国いき祭り♪」、「やましろの国いき祭りと言えば精華町♪」、「精華町と言えばスイーツ♪」、「スイーツと言えばお茶♪」と精華町民はもちろん、スイーツ愛好家、歴史愛好家、イベント愛好家等、誰もが口ずさみながら、この地を訪れ、食し、学び、そして交流人口の拡大を促す。

4 主な実施事業

☆ 既存事業（「せいか祭り」や「やましろの国いき祭り」等）や新規事業（「ツアー・オブ・ジャパン」）と、お茶の京都との連携によるイベントの開催

例えば ○○○

（仮称）スイーツに合うお茶1グランプリ

（仮称）精華スイーツマラソン

実施年度：平成28年度～

事業主体：けいはんな記念公園、精華町商工会、京都府、精華町、関係団体

- ◇ 精華スイーツタウン協会公認キャラクターの制作と、全国ご当地公認キャラクターとの連携イベントへの積極的参加

実施年度：平成28年度～

事業主体：精華町商工会、精華町



- ◇ 地元産品を使用した精華町ならではのスイーツの開発及び京都のお茶を使用したブレンド茶の開発と販売

実施年度：平成27年度～

事業主体：精華町商工会、精華町、民間企業



精華町内のスイーツ店で作られたスイーツ

◇ けいはんな記念公園におけるお茶処（カフェ）の整備

まずは

移動販売車による試験的販売、
東屋の手洗い場整備

実施年度：平成２９年度～

事業主体：けいはんな記念公園、京都府、民間企業

◇ 精華スイーツタウン協会と連携した精華町ならではの

「お茶の京都」の演出と、ホームページやパンフレット、

また地元マスメディアをはじめ愛好家等の Facebook、

LINE などソーシャルメディアを活用した情報発信

実施年度：平成２７年度～

事業主体：精華町商工会、精華町、愛好家、民間企業



カフェ（けいはんな記念公園）



展望東屋（けいはんな記念公園）

◇ お茶の京都情報発信拠点の整備

例えば

けいはんな記念公園や精華町の鉄道駅
における案内表示板の設置

実施年度：平成28年度～

事業主体：けいはんな記念公園、京都府、精華町

◇ 精華スイーツ・ヒストリーロードの環境整備（周遊ルート含む）

例えば

周遊ルートのW i - F i 整備や
誘導看板、また道路整備

実施年度：平成28年度～

事業主体：京都府、精華町



「お茶の京都」山城地域全覧図

◇ 宇治茶かおり回廊の整備

例えば

誘導看板、解説版の設置

実施年度：平成２９年度～

事業主体：京都府、精華町

◇ お茶の定植

実施年度：平成２８年度～

事業主体：けいはんな記念公園、京都府、精華町、民間企業

◇ お茶摘み体験とスイーツ作り

実施年度：平成２９年度～

事業主体：けいはんな記念公園、京都府、精華町商工会、精華町、民間企業



定植されたお茶（イメージ）

5 地域創生に向けた取組との関連 等

精華町地域創生戦略、基本目標4「地元産品・観光のブランド力強化」において、その具体的施策として、「お茶の京都構想の推進」を掲げている。

京都府と連携し、けいはんな記念公園を拠点とし、また、「スイーツタウン」の取り組みと連携した精華町ならではの「お茶の京都」の演出やホームページやソーシャルメディア等を活用した効果的な情報発信を実施することで、「お茶の京都構想」の実現に向けた取り組みを推進する。